

自己評価シート【木工科】

評価対象年度:

長野県上松技術専門学校

評価区分	評価項目	評価	区分評価	コメント	評価項目の説明【算出方法】	評価基準
①応募・入校 (令和6年度生)	応募倍率	○	○	応募倍率 0.9 (応募者 18人/定員20人) フラッシュ加工を好まない人が多く、この加工を一定期間必須にしている木工科を第一希望にする人が木材造形科に比べて少ない。	別紙参照	別紙参照
	定員充足率	○		入校者割合 95% (入校者 19人、定員20人) 女性の入校希望者が、木材造形科に比べて少ない。	別紙参照	別紙参照
②訓練 (令和5年度生)	中途退校率	◎	◎	中途退校率 0% (中途退校者 0人) カリキュラムが訓練生の技能習得の希望にも考慮しながら進めているので、退校希望者がほばいない。 * 未修了者 1人	別紙参照	別紙参照
	技能照査合格率	◎		合格者 100% (合格者9人/受検者 9人) 本校が大切に指導している手加工が技能照査の実技試験であり、機械加工が始まってからも随時手加工の課題を取り入れたり、実技課題のための練習時間も訓練時間で確保している。	別紙参照	別紙参照
③就職 (令和5年度生)	就職率	○	○	就職率 88.9% (就職者8人/修了者9人) 就業先を全国で探すことと、校宛の求人が在校生の人数より多くて選択の幅が広いこともあり、より良い求人先を探す傾向があり、修了後も進職を探し求める傾向がある。	別紙参照	別紙参照
	求人倍率	◎		求人倍率 (求人数 24.5社/定員20人) * 校宛の求人は全体で49社。2科で均等に割ったものを各科の求人数とする。 校宛の求人以外もインスタや指導員等への依頼もあり、求人情報は多い。	別紙参照	別紙参照
総合評価			A	令和5年度の入校者は、過去最低数となったが、個別指導が例年より丁寧にできた。 また、例年より木工科の特徴あるカリキュラム作りへの試行錯誤ができた。	別紙参照	別紙参照

【参考指標】

評価区分	評価項目	評価	コメント	評価項目の説明【算出方法】	評価基準
訓練	在校生の満足度 (令和5年度生)	×	満足度指数 63.75 満足 2人 ほぼ満足 2人 どちともいえない 3人 無回答 1人 木材造形科の無垢の椅子等の課題製作や漆、ろくろ等の木工科では選択できない技能習得を希望する者がいる。 木材造形科のろくろ等のカリキュラムを考慮して、製作課題を進めるため、計画通りにいかないことや課題製作の途中で別課題製作をすることへの対応に苦慮する者もいる。	別紙参照	別紙参照
	定着率 (令和3年度 修了生)	◎	定着率 92.31% 3年目関連企業就業者12人/(修了時間関連企業就業者15人-未確認者2人) * 転職しての関連企業就業者 4名 就業前後でのイメージの違いを感じる者、訓練と現実とのギャップを感じる者も多く、短期間で転職する者が増えてきている。が、ほとんどが木工関連での転職である。	別紙参照	別紙参照

自己評価シート【木材造形科】

評価対象年度:

長野県上松技術専門学校

評価区分	評価項目	評価	区分 評価	コメント	評価項目の 説明 【算出方法】	評価基準
①応募 ・入校 (令和6年度生)	応募倍率	◎	◎	応募倍率 1.2 (応募者 24人/定員20人) ろくろ、漆をやってみたい人や無垢材での加工を希望してフラッシュ加工をやりたくない人が木材造形科を応募する。木工科では無垢材を扱うことが少ないと思い応募する。 木材造形科の応募者が木工科の応募者より多い傾向がある。	別紙参照	別紙参照
	定員充足率	◎				
②訓練 (令和5年度生)	中途退校率	◎	◎	中途退校率 0% (中途退校者 0人)	別紙参照	別紙参照
	技能照査合格率	◎				
③就職 (令和5年度生)	就職率	△	△	就職率 76.9% (就職者10人/修了者14人一進学者1人) * 進学は石川県山中輪軸技術研修所	別紙参照	別紙参照
	求人倍率	◎				
総合評価			A	令和5年度の入校者は、過去最低数となったが、個別指導が例年より丁寧にできた。 また、例年より木材造形科のカリキュラム作りへの試行錯誤ができた。	別紙参照	別紙参照

【参考指標】

評価区分	評価項目	評価	コメント	評価項目の 説明 【算出方法】	評価基準
訓練	在校生の満足度 (令和5年度生)	◎	満足度指数 94.29 満足 10人 ほぼ満足 4人	別紙参照	別紙参照
	定着率 (令和3年度 修了生)	◎	定着率 100 % 3年目関連企業就業者16人/(修了時間関連企業就業者17人-未確認者1人) * 転職しての関連企業就業者 5名	別紙参照	別紙参照

自己評価シート【評価項目の説明】

長野県上松技術専門校

評価区分	評価項目	評価項目の説明 【算出方法】	評価基準	評価	区分 評価	コメント
①応募 ・入校 (令和6年度生)	応募倍率	・定員に対する応募者の倍率 【応募者数/定員】 (注) ・複数回受験した受験生については、重複して数える。 ・第2志望がある場合は、第2志望は考慮しない。	◎: 1倍超 ○: 0.8倍以上 △: 0.5倍以上 ×: 0.5倍未満			
	定員充足率	・定員に対する入校者の割合 【入校者数/定員×100】	◎: 100% ○: 80%以上 △: 50%以上 ×: 50%未満			
②訓練 (令和5年度生)	中途退校率	・訓練期間中に退校した者の割合 【{(中途退校者数-就職による中途退校者数)/(入校者数又は在校生数-就職による中途退校者数)}×100】 (注) ・就職による中途退校者数を加味する。	◎: 10%未満 ○: 20%未満 △: 30%未満 ×: 30%以上			
	技能照査合格率	・技能照査の合格率 【合格者数/受検者数×100】	◎: 90%以上 ○: 80%以上 △: 70%以上 ×: 70%未満			
③就職 (令和5年度生)	就職率	・就職者数の割合 【{(就職者数+就職中退校者数)/(修了者数-進学者数+就職中退校者数)}×100】 (注) ・就職による中退者含む。	◎: 90%以上 ○: 80%以上 △: 70%以上 ×: 70%未満			
	求人倍率	・求人倍率 【企業の訓練科への求人数/定員】	◎: 1倍以上 ○: 0.8倍以上 △: 0.5倍以上 ×: 0.5倍未満			
総合評価		・上記の評価項目の評価基準による結果を踏まえ3段階(A~C)で区分 ・A: 良好 ・B: 一部改善を要する。 ・C: 総合的な見直しを要する。	・「△」と「×」の数で評価 ・①応募・入校②訓練③就職の3区分で評価 ・各区分の項目の悪い方で評価 ・Aの条件 (条件1)「△」が1つ以下で「×」がない場合 ・Bの条件 (条件1)A、C以外の場合 ・Cの条件 (条件1)「×」が2つ以上 (条件2)「×」が1つで「△」が1つ以上 (条件3)「△」が3つの場合			

【参考指標】

評価区分	評価項目	評価項目の説明 【算出方法】	評価基準	評価	コメント
訓練	在校生の満足度	・在校生1人1人の満足度指数から平均を算出 ・満足度指数は以下のとおりとする。 (在校生アンケート問3(1)より算出→満足: 100、ほぼ満足: 80、どちらでもない: 50、やや不満: 20、不満: 0) 【1人1人の満足度指数の総和/回答が得られた調査数】 (注) ・在校生に対してアンケートを実施	◎: 90以上 ○: 80以上 △: 70以上 ×: 70未満		
	定着率	・訓練科に関連した企業等に就職した者の3年後の定着率(訓練科に関連した企業等に転職している者を含む) 【(3年目において訓練科に関連した企業等に就業中である者の数/修了時、訓練科に関連した企業等に就職した修了生数)×100】 (注) ・確認できなかった修了生については分母から除く。	◎: 90%以上 ○: 80%以上 △: 70%以上 ×: 70%未満		